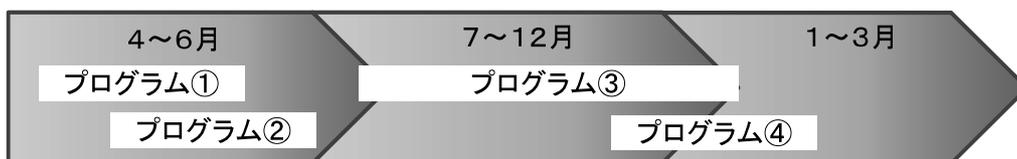


第4章

校内研修例

「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」に資する校内研修のプログラムを紹介します。

なお、ここで示すプログラムは、次のような時期に実施することが考えられます。



プログラム① 学ぶ意欲に関する課題の把握

研修の計画

研修のねらい

学ぶ意欲を測定する「学習に関するアンケート」の結果から、学校、学年、学級の実態等を捉え、課題を共有し、指導の重点や方向性について話し合う。

事前準備

- ・リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」（栃木県総合教育センターH25版）を各自読んでおく。
- ・児童生徒用アンケート「学習に関するアンケート」を実施し、「分析ツール」（p9参照）に各担任又は研修担当者が入力しておく。

展開

内容	時間/形態	概要及び留意点	資料
1 ワークショップ(1) 学ぶ意欲の現状把握	15分/ 班	① 子どもの学ぶ意欲を見取った姿を付箋に記入する。 ② 内容を説明しながら付箋を模造紙に貼り、子どもの学ぶ意欲の現状について話し合う。 ※付箋はグルーピングして、小見出しを付ける。	・付箋 ・模造紙
2 学ぶ意欲の共通理解	10分/全体	・学ぶ意欲のプロセスモデル及びその構成要素について、説明を読み、共通理解を図る。	・本冊子 (p7～9参照)
3 ワークショップ(2) データ分析及び重点目標の設定	20分/全体 班	① 学校全体のデータを見て傾向を把握する。 ② データと子どもの姿の見取りを比較検討する。 ③ ②の結果から、学校課題を踏まえた上で学校全体の重点目標を決める。 ④ 同様に、学年（学級）のデータと子どもの姿の見取りとの比較検討を行い、「強み」と「弱み」をまとめ、学年（学級）の重点目標について話し合う*。 *校内研修ステップアップを参照	・「学習に関するアンケート」の分析結果 ・ワークシート
4 情報交換	10分/全体	・各班で話し合った子どもの傾向と重点目標を発表し合い、共通理解を図る。	
5 振り返り	5分/個人	・感想や今後の学習指導に生かしたいことをシートに記入する。	・振り返りシート

評価

自校の子どもの現状や指導上の課題を共有し、学校、学年（学級）の重点目標について、考えることができたか。

○ 校内研修ステップアップ

教員用アンケート「日頃の指導を振り返ってみましょう（p67参照）」を事前に実施し、視点ごとの平均点を算出しておくことで、教師側の指導の傾向を把握することができます。この結果と児童生徒の結果を照らし合わせることで、具体的な重点目標を設定することができます。

研修のポイント

～学ぶ意欲に関する児童生徒の現状の共有～

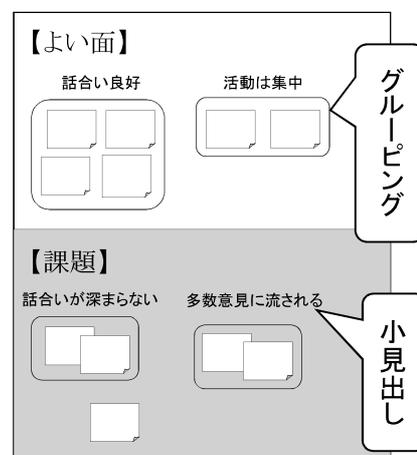
ワークショップ(1)では、研修の導入として、日常の授業中の様子から、学ぶ意欲が表出された子どもの姿を付箋に記入します。記入した内容を話し合うことで、子どもの現状について共有します。

右の図のような模造紙を用意し、簡単な説明を添えて付箋を貼っていきます。貼られた付箋は、グルーピングします。

グループに小見出しを付けることによって、子どもの学ぶ意欲の「よい面」と「課題」を焦点化することができます。

小見出しは、下の図に示すようなワークシート中の「見取り」の欄に記入しておきます。

模造紙の例



～見取りとデータの比較検討と学校課題を踏まえた重点目標の設定～

ワークショップ(2)では、学校、学年(学級)の課題を把握し、課題を解決するための重点目標を設定することを目指します。

学校種や学校の実態に応じて、学年、学級のどちらに視点をあてて検討するかを予め決めておきます。

まず、全体会で学校全体のデータから子どもの傾向を読み取ります。その結果とワークショップ(1)の結果について比較検討し、学校全体の重点目標を設定します。次に、学年(学級)の重点目標を学年やブロックに分かれ、右図のワークシートを用いて、同様の手順で設定します。

重点目標を設定する際は、学校課題の達成を念頭に置き、検討することが大切です。

ワークシートの例

「学習に関するアンケート」の分析(年)

1 学校課題 (⇒学校全体の重点目標)

言語活動の充実を図る(→深い思考、協同学習)

2 学年(学級)の傾向

	〔よい面・強み〕	〔課題・弱み〕
見取り	・話し合い良好 ・活動は集中	・話し合いが深まらない ・多数意見に流される
データ	・協同学習	・有能感 ・深い思考

3 学年(学級)の重点目標

・協同学習を生かして、思考力を高める。
・学習の過程を称賛して、有能感を高める。

研修後の活用等

- 設定した重点目標の達成を目指して、授業のしかけや児童生徒への言葉かけの工夫等を、まずは各自で実践します。取組や手立てについては、プログラム②で検討します。
- 「学習に関するアンケート」の代わりに自己有用感を測定できる「ふだん思っていることに関するアンケート」(p.69 参照)を用いることで、一人一人の自己有用感を高めるための手立てや集団づくりに重点を置いた研修を行うことが可能です。

〔参考文献〕

- ・「高めよう！自己有用感」栃木県総合教育センター 平成25年
本プログラムで使用するアンケート用紙と分析ツールは、当センターWeb サイトで公開しています。

プログラム② 学ぶ意欲をはぐくむ働きかけを考える

研修の計画

研修のねらい

プログラム①で設定した学校・学年（学級）の重点目標を基に、各教科の特性を踏まえながら単元全体を見通し、学ぶ意欲をはぐくむ具体的な働きかけを考える。その働きかけを全職員で共有し、今後の指導に生かす。

事前準備

- ・本冊子 p 8 を参照し、全員が学ぶ意欲のプロセスモデル及び構成要素を再確認しておく。
- ・研修担当者は、プログラム①で決めた「学校・学年・学級の重点目標」をまとめ、本研修の資料として準備するとともに、ワークショップの班編制を知らせておく。
- ・研修担当者は、プログラム①で決めた学年（学級）の重点目標や学校課題を踏まえ、班ごとに話し合う教科等をあらかじめ調整しておく。

展開

内容	時間/形態	概要及び留意点	資料
1 研修のねらいと方法の確認	2分/全体	・研修のねらいと研修の進め方についての説明を聞く。	
2 目標の確認	3分/ 班	・プログラム①で決めた学校・学年（学級）の重点目標について確認する。前回の研修以降に授業で実施した取組を想起する。	・ 前回の資料等
3 ワークショップ	45分/ 班 個人 班 班	① 班で話し合う学年・教科・単元等を確認する。 ② 学年（学級）の重点目標を基に、教科や単元の特性を踏まえ、学ぶ意欲をはぐくむ働きかけを付箋に記入する。 ③ 模造紙に付箋を1枚ずつ貼りながら説明する。 ④ 具体的な働きかけや他の単元での生かし方について協議する。	・ 教科書 ・ 付箋、ペン ・ 模造紙（年間指導計画のコピー）
4 情報交換	5分/ 班	・ 他の班の付箋を読み合い、参考となる働きかけを知る。	
5 振り返り	5分/個人	・ 話し合いの内容を基に自己の授業を振り返り、今後、他の単元や教科でも実践する意欲をもつ。	・ 振り返りシート

評価

学年（学級）の目標を基に、子どもの学ぶ意欲をはぐくむための具体的な働きかけを協議し、今後、実践する意欲をもつことができたか。

研修のポイント

～班編制の工夫による効果的な話し合い～

小学校・・・学年別班

大規模校ならば学年で、中規模校・小規模校ならば低学年・中学年・高学年ブロックで班を編制します。担当している学年の児童の様子をよく把握しているため、実態を踏まえた話し合いができます。

中学校・高等学校・・・教科別班

担当教科別での班を編制します。教科の担当教員が少ない場合は、複数教科で編制します。より専門性の高い話し合いが期待できます。

- ・小学校は、主に学級の重点目標を踏まえた働きかけを考え、中学校・高等学校では、学年の重点目標を踏まえた働きかけを考えます。
- ・学校課題や学年（学級）の重点目標を踏まえて、取り上げる教科や単元を重点化します。

～授業の手立てのアイデア記入～

付箋に記入する際は、各教科の単元のどの時間で行うのかを具体的にイメージするとよいでしょう。年間指導計画（単元の指導計画）を使用して、実際の指導場面をイメージしながら記入します。

記入例：算数

（知的好奇心）

教室にある三角形や四角形の形を探させ、身の回りの図形への興味をもたせる。

記入例：英語

（協同学習）

ロールプレイなど、教え合ったり、励まし合ったりする活動場面を設定する。

- ・働きかけのアイデアを考える際には、第2章の事例を参考にしてください。

～指導場面を想定したアイデアの共有～

単元（題材）全体を見渡して、構成要素への働きかけの場面や具体的な方法を検討します。適切と考えられる場面に付箋を貼りながら意見交換を行います。

～振り返りシート(例)～

研修を実際の指導に生かせるよう、「振り返りシート」をいつでも確認できるところに貼るなどして活用することが大切です。

※実際の指導内容の蓄積は、プログラム④参照

年間指導計画 ※拡大コピー

教科	単元	時間	学習活動	指導上の留意点		評価
				内容	方法	
算数	図形	1	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。
		2	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。
		3	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。	図形の性質を調べ、図形の性質を説明する。
英語	英語	1	英語の発音を練習する。	英語の発音を練習する。	英語の発音を練習する。	英語の発音を練習する。
		2	英語の発音を練習する。	英語の発音を練習する。	英語の発音を練習する。	英語の発音を練習する。
		3	英語の発音を練習する。	英語の発音を練習する。	英語の発音を練習する。	英語の発音を練習する。

学ぶ意欲をはぐくむ各教科での働きかけ

1 学校課題
2 学年（学級）の重点目標
○学年（ ）教科（ ） 単元（ ）
<学ぶ意欲への働きかけ>
<同じ働きかけができる他の単元名>
<感想>

～日常の指導における配慮点～

- ・本研修では、学年（学級）の重点目標の達成を目指し、学ぶ意欲の構成要素を絞って働きかけについて協議しましたが、日常の教科指導においては、他の構成要素にもバランスよく働きかけていくことも大切です。
- ・指導に当たっては、単元の目標や本時のねらいの達成を第一義として考えることが重要です。
- ・協議したことを基に実践した際には、その授業後に教員間で気軽に情報交換をしましょう。

プログラム③ 学ぶ意欲をはぐくむ手立てを共有する授業研究会

研修の計画

研修のねらい

子どもの姿を基にして、授業の観点及び学ぶ意欲の視点に沿って協議し、授業のねらいの達成度と工夫した点の有効性について検証し、成果と改善策を確認する。

事前準備 (研修担当者)

- ・研修の目的や方法、授業の見方、付箋の書き方について共通理解を図っておく。
- ・授業前に付箋（ブルー）を配布しておく。
- ・初めて付箋を使ったワークショップ型授業研究会を行う場合は、説明用レジュメを用意しておく。

展開

内容	時間/形態	概要及び留意点	資料
1 研修の目的と方法の確認	2分/全体	・初めての研修方法である場合、レジュメを使って説明を聞く。	・説明用レジュメ
2 授業者の反省	5分/全体	・反省を聞くことに加え、授業の観点及び学ぶ意欲の視点を確認する。	
3 各自が改善策等を付箋に記入	3分/個人	・一人1項目について、抽象的な表現は避け、具体的な内容を記述する。	・付箋（ピンク）
4 ワークショップ	30分/班	1 授業の観点について ① 参考になった点が書かれたブルーの付箋を出して話し合う。 ② 気になった点が書かれたブルーの付箋を出して話し合う。 ③ 助言や改善策が書かれたピンクの付箋を出して話し合う。 2 学ぶ意欲の視点について 上記の①、②、③を行う。 ※類似・関連した付箋はその都度出し合い整理し、グループごとに小見出しを付け、関連するものを線で結んで構造化を図る。	・模造紙 ・水性マーカー
5 研修成果の確認	10分/全体	・各班が、ワークショップで出された主な話題を発表し、必要に応じて質疑を行う。	
6 振り返り	5分/個人	・学んだことを各自が振り返り、シートや付箋等に記入する。	・振り返りシート

評価

子どもの姿を基にして、授業の観点及び学ぶ意欲の視点に沿って、授業のねらいの達成度と工夫した点の有効性について協議し、改善策を出し合うことを通して、日頃の自分の授業を振り返ることができたか。

研修のポイント

～付箋の書き方・使い方～

- ① 本研修は観点多いため、授業中はブルーの付箋に参考になる点と気になった点を記入することとし、ワークショップに先立って、助言や改善策をピンクの付箋に書く時間をとります。
- ② 付箋は、説明しながら貼るようにし、類似・関連するものについては、その都度グルーピングしていきます。
- ③ 付箋のグループができたなら小見出しをつけます。グループ相互の関連を線で結ぶことによって構造化を図ります。

模造紙の例

〇月〇日() 〇〇科「 」 〇年〇組 授業者()

	授業の観点	学ぶ意欲の視点	その他
参考になった点			
気になった点			

改善策の記入例

有能さへの欲求
言語活動の内容を伝えるだけでなく、教師がモデルを示す。

～成果の共有化～

- ・ワークショップの終わりに、共有化のための発表を行います。
 - ・時間がない場合には、発表を行わず、成果物を見て回ることも考えられます。
- ◎最後に、必ず個人で振り返りを行い、今後自分が生かしていきたいことを明確にし、実践につなげていくようにします。

○ 校内研修ステップアップ

- ・ワークショップでは、模造紙に授業中に撮影した児童生徒の写真の写真を置いて話し合うことも考えられます。話題になっている活動場面を想起しやすくなります。
- ・大規模な中学校、高等学校では、多角的な視点に立った協議ができるように、教科を越えた班（例えば学年の班）で実施し、研修後には、教科部会を開き、話題を深めることも考えられます。
- ・短時間でやりたいときは、付箋は使わずに発表だけを行うことも考えられます。
(例) ①成果を発表（一人1分）②課題を発表（一人1分）③課題に対する助言や改善策を発表（一人1分）※時間があれば、成果や課題を班でまとめる。

○ 評価を指導に生かす

日常的に単元レベルで計画、実践、評価という一連の活動を行いながら、授業が展開されています。つまり、指導と評価の一体化という考え方のもと、評価を後の指導に生かすことが行われています。

学ぶ意欲についても、意図的・計画的に働きかける指導を行った際に、子どもの姿を基に働きかけの効果を検証し、次の指導に生かしていくことが大切です。

〔参考文献〕

- ・村川雅弘 「『ワークショップ型校内研修』の基礎・基本」 教職研修 2013年7月号 平成25年

プログラム④ 実態の把握と効果の検証

研修の計画

研修のねらい

授業研究会で出された意見や日常の授業の実践記録及び「学習に関するアンケート」の結果を分析し、実践した手立ての効果を検証する。

また、検証結果を基に成果と課題を明らかにし、次年度の学校課題や指導計画にどのように反映させるか検討する。

事前準備 (研修担当者)

- ・ 授業研究会で出された意見の記録
- ・ 日常の授業の実践記録
- ・ 「学習に関するアンケート」の結果 (事前アンケートと事後アンケート)

展開

内容	時間/形態	概要及び留意点	資料
1 研修のねらいの確認	5分/全体	・ 研修のねらいと研修の進め方についての説明を聞く。	
2 アンケートのデータの確認	5分/班	・ 学年(学級)のデータの事前と事後のデータの推移を確認する。	・ 「学習に関するアンケート」結果(事前・事後) ・ 集計用紙
3 実践の発表	15分/班	・ 日常の授業の実践記録を発表し合うとともに、授業研究会で出された意見の記録を確認する。	・ 日常の実践記録 ・ 授業研究会の記録
4 成果と課題の確認	30分/班 全体	・ アンケート結果の変化と実践を関連付けて検討し、手立て(働きかけ)の効果を検証し、今後続けていくこと、改善すべきこと、新たに行うこと等を班で話し合い、全体で共有する。 ・ 次年度の学校課題等を決める際の参考資料とするために、話し合ったことを記録に残す。	
5 振り返り	5分/個人	・ 感想や今後の指導に生かしたいことをシートに記入する。	・ 振り返りシート

評価

アンケート結果の推移とこれまでの実践を分析することにより、今後も引き続き取り組んでいくことと改善していくことについて確認することができたか。

研修のポイント

～アンケートのデータの確認～

- ・事前の調査と事後の調査結果の資料を用意します。
- ・事前の調査で課題があった構成要素の平均値の推移に注目します。
- ・右のような集計表にまとめると推移を捉えやすくなります。

【アンケートデータ】 構成要素の平均値の推移をまとめた表（例）

	小3		小4		小5		小6	
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
知的好奇心	3.26	3.33	3.17	3.11	2.95	2.76	2.93	2.81
有能さへの欲求	3.52	3.76	3.46	3.65	3.47	3.49	3.49	3.52
向社会的欲求	3.51	3.56	3.33	3.35	3.32	3.33	3.52	3.76

～働きかけの効果の検証～

- ・データと実践記録を照らし合わせて考察します。（学年あるいは学級レベルで）
- ① 課題であった構成要素のデータの値が上昇した場合
 - 取り組んできた実践の何がよかったのかを確認する。
 - この実践が他単元や他教科でも適用できるか、その可能性を探る。
 - ② 課題であった構成要素のデータの値が上昇しなかった場合
 - 上昇しなかった原因を考える。
 - 実践に課題があるとすれば、働きかけの方法等を見直し、修正案を考える。
- ※ 課題であった構成要素以外についても、数値の推移に特徴があれば、その原因と働きかけを検討します。

～実践記録の共有～

教員間で実践を共有するために、日常の授業で各自が実践した取組を、記録として残しておきます。共有化の方法として、校内の教員用サーバーの活用が考えられます。

実践記録の共有化の工夫例

* 共有フォルダ内に、次に示す項目からなる表をエクセル等で作成し、ファイルとして格納しておく。（整理例：小学校は学年別フォルダに教科別ファイル、中・高校は教科別フォルダに学年別ファイル）

* 実践を行った際には各自が記入する。

* 年間指導計画の備考欄に、働きかける構成要素等を記述することも考えられる。

〔項目例〕

◇学年・組・実践日時

◇教科、単元（題材）名

◇働きかけた構成要素

◇授業における働きかけの工夫

等

○ 校内研修ステップアップ

働きかけの効果を検証する中で修正案を考える際に、新たなアイデアがなかなか思いつかない場合があります。そこで、外部講師の意見を聞いたり、先進校の取組を参考にしたりすることも考えられます。

〔参考文献〕

- ・村川雅弘 他 編著「『カリマネ』で学校はここまで変わる！」 ぎょうせい 平成25年